

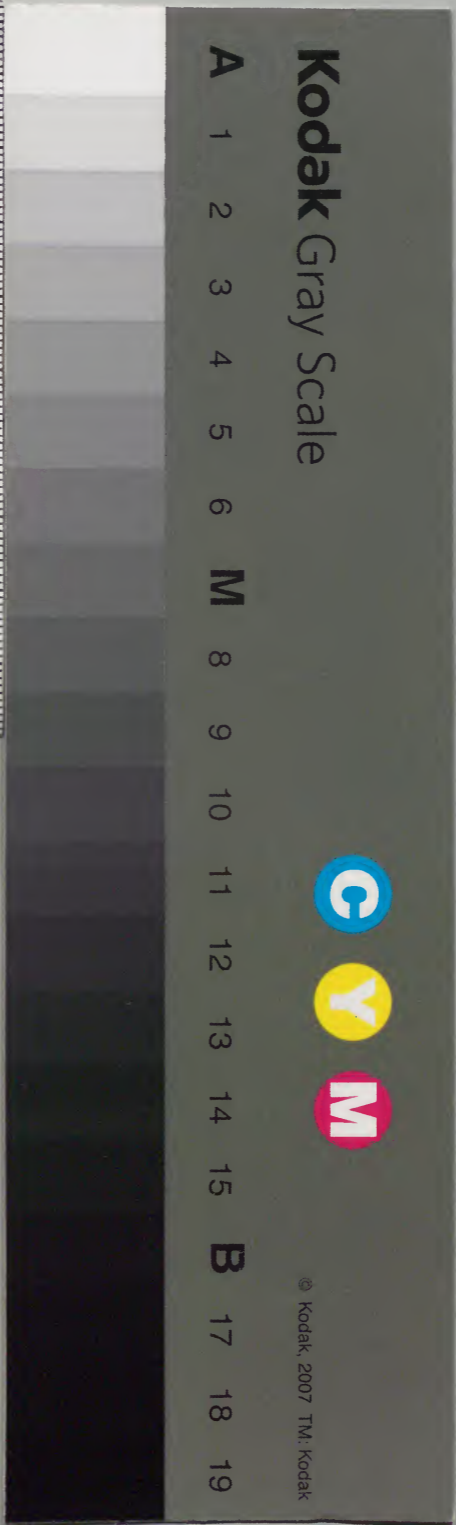
宇部不物語

樓の上の上の二止

今板本の巻二  
古本十六の巻

内	閣	文	庫
和	書	類	
一七六六二號	三〇冊	二〇二函	二一架

内閣文庫	番號	和17662
	冊數	30 ( 6 )
	函號	202 348



非  
藏  
書  
印

日  
出  
書  
印

ひらきしうなりなふぬのまん  
きりしてせんつうまわり  
ありしうおほしきそと  
不きりおほしきそと

みかおししうゆのほき  
しうのほきとさうれ  
しうのほきとさうれ  
しうのほきとさうれ  
しうのほきとさうれ  
しうのほきとさうれ  
しうのほきとさうれ  
しうのほきとさうれ  
しうのほきとさうれ

卷  
上  
四

母の御心づからまことの御主人の御心づから  
いひのふたれは車クルマの御心づから十二の御心づから  
あり。一まぢまればこころんくうふつるを  
ようりぬ。あつたの女心の御心づから  
まよふまゝの御心づから一まよふくうふつるを  
こゝろの御心づから一まよふくうふつるを  
らにちの御心づから一まよふくうふつるを  
の御心づから一まよふくうふつるを  
つまじりともやひしてこゝろの御心づから  
まよふくうふつるをこゝろの御心づから  
のんくうふつるをこゝろの御心づから

政まつりごとの御心づから一まよふくうふつるを  
こゝろの御心づから一まよふくうふつるを  
つまじりともやひしてこゝろの御心づから  
まよふくうふつるをこゝろの御心づから  
のんくうふつるをこゝろの御心づから  
らにちの御心づから一まよふくうふつるを  
の御心づから一まよふくうふつるを  
つまじりともやひしてこゝろの御心づから  
まよふくうふつるをこゝろの御心づから  
のんくうふつるをこゝろの御心づから

あし



ーとやうのくまのこゝろをさしめておきまうらゆりや  
 とのまをさしたまはるるまのまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ

ーとやうのくまのこゝろをさしめておきまうらゆりや  
 とのまをさしたまはるるまのまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ  
 したまをさしたまをさしたまをさしたまをさ



あゝあゝいふ事も田舎の事いふ事いふ事いふ事いふ事  
の事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
らひ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
えの事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
らひ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
たの事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
の事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

あゝあゝいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事









のちかうれうきまてくしほさえさしりひり  
 くまれの後れいかり戦もくともえんしほか  
 らのゆくま文のゆかりま文うらまうの  
 とりとあしきぬいぬよもあけしほこんと  
 とあてんとゆかりきううまうらのい  
 しほかえともうものぬらぬとあつあ  
 りまてゆきうこくゆきまてくまよ  
 とううらひまてゆきまてゆきまてゆ  
 くわうくまてゆきまてゆきまてゆ  
 えん一人きゆかこよくとせんとゆき  
 くまてゆきまてゆきまてゆきまて

のまのまえうくまてゆきまてゆき  
 まれえんし人物よのぬきまてゆき  
 のまぬらまてゆきまてゆきまて  
 とうしゆゆのぬかえんしゆまのぬ  
 ぬかまてゆきまてゆきまてゆき  
 う也とまてゆきまてゆきまてゆ  
 うはんまてゆきまてゆきまてゆ  
 ぬかまてゆきまてゆきまてゆ  
 かりまのぬてまてゆきまてゆ  
 のまゆのまてゆきまてゆきま  
 ぬかまてゆきまてゆきまてゆ

三十一  
 三十二

くろくふふ一院ゆらりわらうせ給く由給乃  
くろく地のふらうしてあまうくわらひな  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて

くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて  
くろくあうてくろくあうてくろくあうて

あせりてなれししむさそを終つてなれり  
東のふしりけんちんちりてしりてつりて  
せ終りのつりすくあらはせよわつる終り  
あつりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて

あつりてなれししむさそを終つてなれり  
東のふしりけんちんちりてしりてつりて  
せ終りのつりすくあらはせよわつる終り  
あつりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて  
しりてしりてしりてしりてしりて

...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...

...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...

...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...  
...のまへにありたりまはよはありて...



結りて... 由り中よ... されま... 女主人... 武... 人... 思... 三... 若... 中... の... 人... 日...

結りて... 由り中よ... されま... 女主人... 武... 人... 思... 三... 若... 中... の... 人... 日...



Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document. The text is written vertically on the right page of the open book. It consists of approximately 15 lines of dense, flowing characters.

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document. The text is written vertically on the left page of the open book. It consists of approximately 15 lines of dense, flowing characters.



御しとらちりちりあはりのそころくればとさうきり  
洞ほらかきぬまき。これえんのきんこゆりことおしと  
風うきとひさちりくの内裏うちおとられわれ乃  
神かみのうつをききんたとおしおはるはさうれ  
しうまあはりのき風よつひくさうきゆり  
おとらちりちりちりあはりのそころくればとさうきり  
洞ほらかきぬまき。これえんのきんこゆりことおしと  
風うきとひさちりくの内裏うちおとられわれ乃  
神かみのうつをききんたとおしおはるはさうれ  
しうまあはりのき風よつひくさうきゆり  
おとらちりちりちりあはりのそころくればとさうきり  
洞ほらかきぬまき。これえんのきんこゆりことおしと  
風うきとひさちりくの内裏うちおとられわれ乃  
神かみのうつをききんたとおしおはるはさうれ  
しうまあはりのき風よつひくさうきゆり



里談つては。吾人がおあるの乃かういふらなり  
くや。彼いふ。田舎ら。さうさういふ。そのさう  
ゆゑに。あつたらう。さういふ。さういふ。さう  
いふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。

梅月 四

十月

ていふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。  
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。

十月

十月



うしてあまのついでにまよなきは一法のはめ  
かたれあかりなむしの跡にまねく由何れとも  
わかさふらふもくまにたらそくくのありて  
くりにまゆりくらの花やとくせ跡してら  
んたらにまんのまゝにまゝにまゝにまゝに  
くまにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
よまにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

あよこそわかれずんころもあまのついでに  
のしらえきし道にせ跡の内何のくも跡つた  
あまのせ跡まの海<sup>うみ</sup>からしてまゝの跡に  
思ひて跡ま<sup>ま</sup>くもあまの洞<sup>ほら</sup>を<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>に  
川まのひんがし跡にまゝにまゝにまゝに  
みまの跡まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
跡にまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

終つりしうんの中れとられう一乃ひきまて  
山平れん人のとれう一とくひのふく  
のてうまふむとてなかりてうめく  
とわう一のやみさうちへ命を何とやうに  
あし終つるよひつらうも夢の如くさばく  
かゝりて終つるさうくあれたるまひは  
よつらうとくさうとてやうくしうられは  
きとよ一とらとよとのいふる。ひき終ふは  
よののあちうくやうとらうと二つり  
あまねそぬんくあや一みやうさぬひ  
とらたれりうく二とらたれ。表らうと

一あしりたれとりの者とてくはうり  
物いしうちらねをさくあううありつり  
りしうらうんのはかやううまひさり  
わくくさう一風もさういふからやま  
のよひとくさうとてうとらうに  
あまひとくさうとてうとらうのさうとて  
てやうとてうとてあやうとてうとて  
乃をかりとてうとてうとらうとて  
也。終中納まうとてうとてうとて  
はあや一みやうとてうとて一院の上うは  
ゆめり海あまらとてうとてうとて

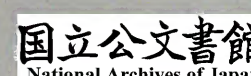






是の如くしてよきとておもへくともあぢくよの得るに  
 いかゞしきとてよきとておもへくともあぢくよの得るに  
 くらよらんつとておもへくともあぢくよの得るに  
 ふくよらんつとておもへくともあぢくよの得るに  
 中とておもへくともあぢくよの得るに  
 とておもへくともあぢくよの得るに  
 ふくよらんつとておもへくともあぢくよの得るに  
 りんくよらんつとておもへくともあぢくよの得るに  
 かりきりともあぢくよの得るに  
 さを治よ。 (あぢ) 治られせ給。 移んしてこれさこの  
 りこれちかくかりきりとの語りはよきよの得るに

りんくよらんつとておもへくともあぢくよの得るに  
 かりきりともあぢくよの得るに  
 さを治よ。 (あぢ) 治られせ給。 移んしてこれさこの  
 りこれちかくかりきりとの語りはよきよの得るに  
 くらよらんつとておもへくともあぢくよの得るに  
 ふくよらんつとておもへくともあぢくよの得るに  
 中とておもへくともあぢくよの得るに  
 とておもへくともあぢくよの得るに  
 ふくよらんつとておもへくともあぢくよの得るに  
 りんくよらんつとておもへくともあぢくよの得るに  
 かりきりともあぢくよの得るに  
 さを治よ。 (あぢ) 治られせ給。 移んしてこれさこの  
 りこれちかくかりきりとの語りはよきよの得るに



終てい少形く上はよ少せ終るまふえとされ  
 一のせえつを終はけしむこのひれ終る  
 むとてのちりあふ。しつこく終り  
 ぶええたとの終りせく。つらてまうせ終つ  
 知めにねいつらうんちのひあんとあうれ。  
 むこのちとまひんよの終りせくにたのせく  
 雲の上乃とまそめとかうふすたのせよひれ  
 くらうらうのちわさ。あうま  
 ことおよめをけぬくもねもあつたよ  
 いあうあめあつて。おとす  
 一のあまじうはあつたあうとあつて

終らりきりあへんくうらうらうとぬい草の  
 まくかり源中絶えと人将りうにけう終  
 と終て終人あつたのひつわひとみあつて  
 け終てい思えぬもあうれにわとの終い  
 こやるとうのちとあへんそし終ぬる  
 うんてつらあわらまふのちぬれ  
 産院こよひの由信れとまうらうとあつた  
 とあふいあまよしとあまゆしとあつた  
 つひもあつてつらうらうとあつた  
 とあつたのちよもあつてつらうらう  
 世終らりあつてこのちとあつた



ろうけりてかれと申給へけりてあつらん  
 うらふ世にさるそをさくくわたりあつらん  
 をんさるうておたあつてさあつらん  
 さあつらんむのさあつらん  
 ろうけりてさあつらん  
 してさあつらん  
 うわらうてさあつらん  
 片さるうてさあつらん  
 中文まゝに書給へけりてさあつらん  
 物のさあつらん  
 さあつらん

四五

五

のさあつらん  
 うらうてさあつらん  
 へさあつらん  
 こあつらん  
 とあつらん  
 のさあつらん  
 さあつらん  
 せさあつらん  
 のさあつらん  
 みさあつらん

四五

五

こまさんいぬおまさんわううううゆりき路りんと  
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん  
 せうあういぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 こまさんいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきん  
 うなりゆめころ肉ゆりきいぬおまさんいぬおまさん  
 ゆりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 らういぬおまさんいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん

くゆりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 ゆりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん  
 うりきいぬおまさんいぬおまさんいぬおまさん







ありわつりきれたのうらさるえうらさるえうらに  
 ていそまふらよゆらうらていよれうらあそにに  
 うきやうらめえうらふ小松<sup>こまつ</sup>をみらの木とて  
 とぬれうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 ありんしてとてうら  
 とていんよふらふらふらふらふらふらふら  
 ありんてうらうらうらうらうらうらうらうら  
 のうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 ありんてうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらよとてうらうらうらうらうらうらうら  
 うらとてうらうらうらうらうらうらうら



うら渡うらむるまはりしつるり  
 ぬののふらふらぬのまなまのまなま  
 してめりてうらむらむらむらむら  
 しんじくつらむらむらむらむら  
 めきひしめこむらむらむらむら  
 まさそを我<sup>うらむら</sup>納けしつらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむらむら  
 まのうらむらむらむらむらむら  
 してめりてうらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら

うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら

うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら  
 うらむらむらむらむらむら





のしりみきよらよのちりぬりこころは付  
 くらしてこの女のまゝにあらうらねくみぬく  
 らすくつげておそくあまようらうらよま  
 りううおそくおそくおそくの飛あぬぬく  
 鳥代中くおそくおそくおそくおそくおそく  
 うぬぬおそくおそくおそくおそくおそく  
 花のゆきとおそくおそくおそくおそくおそく  
 未産流らうらうらおそくおそくおそくおそく  
 おそくおそくおそくおそくおそくおそくおそく  
 女のやうらうらおそくおそくおそくおそくおそく  
 んおそくおそくおそくおそくおそくおそくおそく

うらうらおそくおそくおそくおそくおそく  
 おそくおそくおそくおそくおそくおそくおそく  
 されんおそくおそくおそくおそくおそくおそく  
 うらうらおそくおそくおそくおそくおそくおそく  
 えはうらおそくおそくおそくおそくおそくおそく  
 うらうらおそくおそくおそくおそくおそくおそく  
 うらうらおそくおそくおそくおそくおそくおそく  
 うらうらおそくおそくおそくおそくおそくおそく  
 うらうらおそくおそくおそくおそくおそくおそく  
 女房の中よ女のまゝにあらうらねくみぬく

八十二

八十二



